

刑務官を志望したきっかけ

小学1年生から大学卒業まで剣道を続けていて、社会人になっても剣道を活かせる仕事を探していたときに、地元の先輩から「刑務官」という仕事を紹介してもらいました。

刑務官になってよかったと感じたこと

- ・ 刑務官になったことで剣道を続けることができたこと
- ・ 管区大会などを通じて、他施設の方々との繋がりができたこと



現在の仕事内容

現在の業務は、被収容者の対応など多くの刑務官が従事している業務とは異なり、「**SeRT隊員**」として、暴動や災害などの非常事態に備え、いかなる状況でも事態を速やかに収束できるよう、日々の訓練に取り組んでいます。



SeRT隊員のやりがい

私たちが暴動や災害などの非常事態に備え、日々励んでいる様々な訓練の中で、SeRT隊員でなければ学べない知識や技術を修得できることにやりがいを感じています。

しかし、本当は、私たち**SeRT隊員**が**出動する事態にならないこと**が一番よいのではないかと感じています。



刑務官としての経歴

今年で採用12年目になりました。

採用された刑務所では、昼夜間勤務（いわゆる「夜勤」）、警備係、新入訓練工場担当をしていましたが、一昨年から「SeRT隊員」となりました。

特別機動警備隊に任命されたからには、自分に任されたことはもちろんのこと、自ら率先して様々なことに挑戦していきたいと思っています。

武道の経験が生かせたと感じたこと

矯正護身術の指導の際、護身術の技能指導だけではなく、護身術のための心構えや、武道における基本的所作から指導を行うことができました。

施設勤務における武道訓練

一人一人が目標を待ち、高い意識で武道訓練に取り組んでいるため、質の高い稽古ができていると思います。大会で結果を残すために努力する人、現役を引退し指導者として貢献する人など、広い年齢層で稽古をし、切磋琢磨することができています。

また、施設の道場だけでは限られた人としか稽古ができないので、月に一度行われる稽古会（出稽古）にはなるべく出席するようにしています。

矯正における武道の位置づけ

矯正の武道は、警察の特練と体系は異なりますが、矯正施設での勤務の特性から柔剣道も重要視されており、武道訓練も勤務の一環として認められています。

仕事と武道のバランス

私たちSeRT隊員の勤務では、特別警備活動訓練、救急法、体力トレーニングなど基本的には身体を使った勤務が主体となります。勤務で身体を鍛え、**勤務終了後の武道訓練で忍耐力・精神力をバランス良く養うことができている**と思います。

大会への出場

SeRTとしては、矯正施設の剣道部の方々と試合練習などをさせていただき、法務省特機として第51回全日本官公庁剣道大会に出場し、初出場ながらベスト8に入り、**敢闘賞を受賞**することができました。



これから刑務官（武道区分）を志望する方に一言！

私は、剣道を続けたいという気持ちから、武道区分で合格し刑務官になりました。矯正の武道については、以前に比べ**社会的な認知度も高まり、競技レベルも高くなってきています**。私も、現状に満足することなく武道訓練に励み、**技術・精神力の向上に努めたい**と思います。



仕事はもちろんですが、**武道で結果を残したい**という気持ちがあるのなら、刑務官になって、自分のためにも矯正全体のためにも頑張っしてほしいと強く思います。

